



明日を創る医療総合誌

CLINIC
magazine

2021
JULY
7

No.623

[特集]

てんかんを知る



写真：山梨県「昇仙峡」

「リポート」

クリニックにおける
心理社会的治療「MOSES」の実践

日本橋神経クリニック 久保田英幹氏

クリニックにおける
非専門医・メディカルスタッフに
知つてほしいこと

日本てんかん協会 田所裕二氏

「インタビュー」

[かかりつけ医が知っておきたい歯科疾患]

全身疾患と関連する歯周病
アルツハイマー病との関連も示唆
シード歯科・矯正歯科 白 賢氏

てんかんを知る

有病率1%弱と身近な疾患であるてんかん。症状が多様な上に幼少時の発症が多く、患者は成長後も病気に関する知識が不足しがちで、自己肯定感の低下につながったり、発作時の意識がないためアドヒアラント維持が困難になることがあると言われている。これを防ぎ、治療効果を高めるために、患者向けのてんかん学習プログラム「モーゼス(MOSES)」が注目されている。

本特集では、静岡てんかん・神経医療センターでモーゼスに携わり、昨年からは、都内で開院したクリニックで、外来でのMOSESを実施している久保田英幹氏にその詳細を伺うとともに、日本てんかん協会の田所氏に、非専門医やメディカルスタッフにてんかんについて知ってほしいことを聞いた。

(編集部)

CONTENTS

リポート クリニックにおける心理社会的治療「MOSES」の実践

知識習得と患者同士の体験共有で
患者の健康状態向上の可能性

日本橋神経クリニック 久保田英幹氏

インタビュー 非専門医・メディカルスタッフに知ってほしいこと

特別な病気と考えずに
正しい情報を得て普通に診てほしい

11

日本てんかん協会 田所裕二氏

リポート

クリニックにおける心理社会的治療「MOSES」の実践

知識習得と患者同士の体験共有で患者の健康状態向上の可能性

欧米で先行してきたてんかん患者への心理社会的治療。日本では、「MOSES (Modulares Schulungsprogramm Epilepsie、大人用モーゼス)」／「famoses (family modulares schulungsprogramm epilepsie、子どもとその親・家族用ファモーゼス)」が導入され、静岡てんかん・神経医療センター等で実施されてきたが、普及は進んでいない。昨年、外来での2日間の短期集中型MOSESを開始した日本橋神経クリニックの久保田英幹院長、MOSESでトレーナーを務める山口規公美看護師と久保田裕子副院長に取り組みの概要を伺った。

(編集部)

てんかんについて“孤独”に過ごしてきた患者の体験共有の場としても

MOSESは1998年、famosesは2005年にドイツ語圏諸国で開始され、日本では2010年にMOSES企画委員会（日本てんかん学会と日本てんかん協会が合同で設置）がMOSESの日本語テキストを発刊。2013年に静岡てんかん・神経医療センターで実施が始まるのと同時に同委員会がMOSESトレーナー研修セミナーを開催。famosesについては、2018年に日本語テキストが発刊され、2019年から実施。トレーナー研修セミナーも開催されている。MOSES、famosesとともに、実施するためには、トレーナー研修を受講する必要がある。

「MOSESはてんかんのある人が自立した生活を身に付けるための手

段の1つで、小児期医療から成人期医療への移行の手段としても活用できます。その重要性は日本でも認識されてきましたが、保険適応されていないため、実施施設がなかなか増えない状況でした」（久保田院長）。

静岡てんかん・精神医療センターでのMOSESは入院患者に対して、計8セッション（各1時間、週3回）を3週間かけて実施し、外来では行っていない。2019年度から、MOSESを参考としたてんかん学習プログラムを外来で実施している国立精神・神経医療研究センター病院では、6セッション（各2時間、月曜午後）を6週間で行っているが、平日午後6回の参加は患者にとって容易ではないという。

「外来でのMOSESの実施は開院コンセプトの1つ」と話す久保田院長は「MOSESは患者さんにとって



日本橋神経クリニック
院長

久保田英幹氏

くぼた・ひでもと

1982年東京大学医学部卒業。東京女子医科大学病院、東京都八王子小児病院、東京都立神経病院で小児科、小児神経科、神経内科を研修。1988年より国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター（旧・国立療養所静岡東病院）勤務。2013年より同センター統括診療部長。2020年5月日本橋神経クリニックを開院。

学びの場であるだけでなく貴重な体験共有の場であることが、実施して分かりました。参加者は、学生や会社員、主婦といった、普通に社会生活を送ってきた方たちですが、てんかんに関しては、とても“孤独”に過ごしてきたことが浮き彫りになりました」と述べる。親からてんかんを隠すように言われて育ったり、そういう偏見はなくても成長してからは「心配をかけたくない」との思